

香港 日本には伝えられない香港の変化

すが 須賀 つとむ 努

コラムニスト・アジアウオッチャー

昨年オキュパイと呼ばれる反政府デモがあった香港。既に表面上は平静を取り戻しているように見えるが、その内情は変化したのだろうか。筆者も約10年住んだ街であり、とても他人事とは思えないが、香港の動きにはこれまで以上に、様々な角度から注目する必要があるようだ。

普通話は厳禁？

今香港で使ってはいけない言葉は『普通話』であろう。1990年代香港で仕事をしていた時も『普通話（標準中国語）なんか話すのはダサイ』と香港人から何度も言われた記憶がある。大陸から来た中国人は広東語が話せないと仲間に入れてもらえない、と数か月で猛勉強してマスターしていた。

ところが香港返還後、2000年代の初めなると、同じオフィスのスタッフから『実は私は英語より普通話の方が得意。今日から普通話で話して』と言われ、腰が抜けるほど驚いた。その頃は『これからは普通話が話せないと就職できない』と言われ、英語の使い手も密かに習いに行っていた。そしていつの間にか普通話を訛なく話せる世代も登場し、香港も変わったな、と思っていたのだが。

最近香港で一般人に普通話で話し掛けると値踏みするような目で見られ、露骨に嫌な顔をされる。愛想がよいのは不動産屋や宝石屋、高級ブランド店の店員ぐらいではなからうか。それでもマナーの悪い中国人には陰では散々悪口を言っている。我々が普通話を使う場合、まずは日本人であることを明確にした上で、普通話で話してもよいかと英語で聞いて

から使うのが良いとさえ、助言される始末。日本では『香港は中国の一部』などと言っているが、それほど香港人は中国人を嫌がっている。

香港人女性が大陸に嫁ぐ時代

しかし香港人の知り合いと話していると『実はうちの娘が大陸のヤツと結婚したいと言い出して困っている』という話を



写真1 カジュアルな結婚登記所の風景

2-3聞いた。昔は香港人男性が仕事で大陸へ行き、そこで中国人女性を見初めて結婚する、愛人にする、というケースを数多く見てきたが、今後数年でこの傾向が逆転するかもしれない。

『夫が大陸籍で妻が香港籍のカップルは急増している』と地元紙は伝えている。ある香港人は『人民元の上昇に伴い大陸籍男性の価値も上昇したのさ』とその経済力の変化が、この傾向をもたらしたと指摘。確かに以前の香港なら大陸より遥かに豊かな財力を有していたが、今や大陸マネーの攻勢に晒されているのだから、女性の中には経済的基準で男を選ぶ人も出てくるだろう。

当の香港人女性に聞くと絶対嫌だ、という人もいたが、『昔の田舎っぽい雰囲気はなくなった』など、好意的な意見もあり、大陸中国が嫌い、ということ、個人としての男性とは別物との考えもあるよ



【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

撮影：佐渡多真子



うで、興味深かった。

繁盛していても閉店する店

香港で常に一番の話題といえば不動産価格。ここ数年価格は上昇一辺倒で、東京の価格の遥かに上を行き、シンガポールと並んでアジアを誇っている。そしてそれに伴い賃料相場も跳ね上がっており、持つ者は栄え、持たざる者は苦しんでいる。

ある香港の知り合いは『香港で自宅を買うのは夢のまた夢、むしろ日本で買う方が現実的』と言い、円安で価格がグッと安く見える東京でマンションを探している。ホテル代も高い。香港のちょっとしたホテルは日本円1万円以下で泊まれる所は殆どなく、筆者も香港から足が遠のいている。実際先日泊まった銅鑼湾の老舗ホテルは5年前の2倍以上、東京なら一流ホテルに泊まれるほど高額だった。

『食といえば香港』というキャッチフレーズも色褪せてきた。かつて老舗と言われた街中のレストランの多くが、今はもう無い。跡地にはファーストフードのチェーン店など、資本力のある企業しか出店できない状況になっている。朝ごはんにお粥を食べようとしても、なかなか見付からないし、あってもとても高い。

在住日本人によると、『日本食は確かにブームではあるが、連日満員盛況のレストランが突然閉店に追い込まれるケースがある。その殆どは契約更改時の急



写真2 閉店する上環の老舗茶莊

激な家賃値上げ要請だ』と憤慨している。『いくら稼いでも家賃が払いきれない』と嘆く経営者、これはもう異常事態ではないだろうか。

むしろ高まる香港の重要性

昨年のおキュパイでは、知り合いの香港研究者、香港在住者の間で『バブル』と呼ぶ現象が起きた。香港返還前はこぞって拠点を構えていた日本の報道機関。しかしその後その殆どが大陸に拠点を移してしまい、日本で香港のニュースが報道される機会はめっきり減少していた。そこに突然起こった事件、メディアは香港に殺到し、広東語のできる人材を探し、香港のことが本当に分かっている研究者はテレビに出ずっぱりになった。だがそれも一時のこと、IS 関連が話題になると、今度は中東関係者がテレビ局に呼ばれている。

一方外国メディアは返還後もそのまま拠点を置いており、そのニーズは更に高まっているという。ある欧州系メディアの友人は『日本のマスコミが香港から撤退したのは理解できない。中国情報を大陸の中だけで取り切れると思っているならそれはおかしい』と言い切る。香港には有象無象の情報が流れてくる。それを吟味し、真実を計り、報道していくのがマスコミではないか、という意見には同意せざるを得ない。

中国マネーが世界に拡散していく中、香港経由の資金も様々な形で動いて行く。その資金の流れがある意味でこれからの世界を決めていくのかもしれない。単に香港の不動産価格上昇だけがニュースではなく、そこで起こる人とカネの流れ、香港の重要性は高まっているという気がしてならない。